

## 1 取組名称

オープンイノベーションに向けた家電製品拡張の企画と設計に関する正課外教育  
ーコース・学域・学年を超えたイノベーションの実装と公開の教育ー

## 2 取組組織等

システムデザイン学部インダストリアルアート学科、情報科学科  
システムデザイン研究科インダストリアルアート学域、情報科学域  
産学公連携センター

## 3 取組実施代表者名

システムデザイン学部インダストリアルアート学科 教授 笠松 慶子

## 4 取組年度期間

平成 29 年度～平成 30 年度（2 年間）

## 5 取組の概要

第 3 期中期計画では、分野横断的な学びを実施するとしているが、これは現状の教育においては残念ながら不十分な状況である。すなわち、現在の本学の体制では、システムデザイン学部／研究科が協力して全体の特徴を融合増幅する教育活動は行い難く、新しいシステムを創発し、多様な産業の萌芽を創る発想力を高められるような教育が十分に達成されているとは言えない状況である。システムデザイン学科・システムデザイン専攻は、単一の教育組織と言いながら、学修単位の取得はコース・学域毎に独立に行われるのが実情であり、横断的で刺激を与え合えるような学びの場はほとんどない。特に、実際のシステムにおける複合的側面を最適に構成するために必須となるプロトタイピングとその継続的改良実装、さらに一般社会への成果の公開によって産業界への貢献に接近できるレベルまで進めるには、かなりの費用を伴うため、正課での実施が非常に難しい。

本取組は、製品設計のオープンイノベーションの基礎モデルとして、デザインと機能発想を分野横断的に教育し、かつ極めて教育効果の大きい製品プロトタイプの実装とその公開活動を行うことを目指し、正課のプロジェクト演習とタイアップし、アイデアの実装から公開までを支援する正課外教育活動を実施するものである。そして、このような正課外の教育の有効性と実施モデルを明確化することを目的とする。

## 6 事後評価の総合評定

4. 2 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

## 7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 家電製品拡張の企画と設計を行う正課と連携し、プロトタイプの実装と公開を本プロジェクトで行うことにより、学生が企画から設計、実装、公開に至るまでの一連の作業を体験することができ、将来プロダクト・イノベーションの分野で活躍する人材の育成に寄与すると考えられる。
  
- 正課と正課外教育の連動、学生のモチベーションの喚起、産学連携、社会還元などをバランスよく結びつけた完成度の高いプログラムである。特に、学生たちに自らのキャリアパスのイメージを持たせるための様々な仕掛けが配置されている点で優れている。
  
- 学部生と大学院生の同時参加によるシナジー効果を明確化するとともに、就職活動を控えた学部3年生の対象化も検討してほしい。